

上演9 山形県代表
山形県立山形東高等学校
作 樋口琳子・山形東高校演劇部
「ぼいす／のいず」

講評文

岩手県立北上翔南高等学校 大澤彩姫

今回の上演を通して、「逃げることで自分を守ること」と「後押しされて生まれる勇気」が物語の中心に描かれていると感じた。

舞台はとある商店街。人との関わり方に悩むオタク気質の少女・あさみと、あさみにだけおじさんに見えている1つのイヤホンを中心に話が進む。駄菓子屋のよしばあやイヤホンおじさんとの別れ、そして誠人との出会いを介し物語が展開していく。

特に印象に残ったのは、おじさんが言い争いや騒音からあさみを守るシーンである。孤独を強調するように主人公のみがSSによって照らされ、あえて音響をほとんど使わず、キャストの声だけで"ノイズ"を表現していた点が印象的だった。

また、よしばあの「明日からまた頑張りな」という言葉は、"逃げてもいい"というメッセージとしても受け取ることができ、心に残った。

本作では、ただ逃げるだけではなく、人付き合いが苦手だったあさみが音楽の力を借りて、友人との亀裂を修復しようと一歩踏み出す心情の変化も丁寧に描かれている。ラストシーンで、あさみ・誠人・イヤホンの三者にスポットが当たって幕を閉じる演出は、とても美しく感じられた。

「イヤホンがおじさん」という聞き慣れない言葉で観客の興味を引き、テンポの良いギャグで惹きつけながら、単調な日常の中にある非日常を音楽によって表現している点も魅力的だった。身近な題材だからこそ、観る側が自分自身と重ねて感じられる作品だと思った。